



JASDAQ

平成24年5月18日

各 位

会社名 株式会社 創 健 社  
代表者名 代表取締役社長 中村 靖  
(コード番号：7413)  
問合せ先 取締役管理本部長 本田 次男  
(TEL. 045-491-1441)

### 「継続企業の前提に関する注記」の記載解消に関するお知らせ

当社は、本日発表の「平成24年3月期決算短信」において、「継続企業の前提に関する注記」の記載を解消いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

#### 記

当社グループは、平成20年3月期中間決算短信以来、平成24年3月期第3四半期決算短信まで「継続企業の前提に関する注記」を記載しておりました。

当該状況を解消すべく当社グループといたしましては、当社グループの現状と課題を厳しく認識し、事業全般の見直しにより組織・業務の変革と再構築を行い、生産効率を改善させ、利益重視の経営体質へ全力を尽くしてまいりました。それとともに、引き続き食品の安全性と信頼性を高めることを目指し、商品を通じて現代の社会環境に合致した食の提案を行い、健康・自然食品専門企業として当社グループの企業ブランド力を向上させることを目指してまいりました。

当社グループは、中期経営計画『創健社「選択と集中」』(平成21年3月期～平成23年3月期)に基づき、黒字体質の形成を目指して活動を継続しました。

初年度でありました平成21年3月期は、業務改善と物流拠点の見直しを行いました。

2年目でありました平成22年3月期は、業務改善の継続と不採算部門の閉鎖により人員のスリム化が可能になりました。

最終年度でありました平成23年3月期は、全社改革により黒字体質への転換の年と位置付け、平成22年3月期並みの売上高確保のための各種の施策と業務改善継続による経費の削減維持を行いました。

その結果、平成23年3月期連結会計年度において業績が改善し、営業利益44,664千円、当期純利益39,564千円を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローもプラスの56,022千円となりました。しかしながら、計画通り経費については削減維持をして一定の成果を上げましたが、売上高については新しいマーケット需要に対して手が打たれていなかったため、平成22年3月期並みの売上高を確保できませんでした。

このような状況に対して、当社グループは、第2次中期経営計画『創健社「新たな顧客層の獲得と利益重視の経営体質へ」』(平成24年3月期～平成26年3月期)の初年度となります当連結会計年度におきましては、第2次中期経営計画の成否の鍵をにぎる重要な年と位置付け、第2次中期経営計画期間中の売上高拡大のための各種の施策の展開のスタートの年と考えており、売上高、営業利益及び当期純利益の確保達成を目指し、役員・社員一丸となって取り組んでまいりました。

この結果、当連結会計年度は売上高4,215,151千円(前連結年度比2.4%増、当初見込比2.6%増)と、この数年下げ続けました売上高が当連結第2四半期累計期間において、ようやく下げ止まり、その

後も順調に推移いたしました。利益面についても、当初の見込みより増加し、営業利益 32,943 千円、経常利益 31,293 千円、当期純利益 28,359 千円となりました。また、営業活動によるキャッシュ・フローもプラスの 75,486 千円となりました。

以上の結果、平成 20 年 3 月期中間決算短信より平成 24 年 3 月期第 3 四半期決算短信まで記載しておりました「継続企業の前提に関する注記」を、本日発表の平成 24 年 3 月期決算短信において解消することといたしました。

以 上